



全国私立大学FD連携フォーラム

Japan Private
Universities

FD Coalition Forum

News Letter No.3

日本の新しい「高等教育の質保証」標準をめざします。



CONTENTS

- P2 JPFF 概要
- P3 2011 (平成 23) 年度の取り組み紹介
- P4 活動報告
- P6 新規加盟大学の紹介
- P7 FD 徒然草 - Part2 -
「法政大学におけるFDへの取り組み」
ー学生・職員・教員の協働によるFDー
法政大学 教育開発支援機構 FD 推進センター長 川上 忠重
- P8 「実践的FDプログラム」を取り入れたFD活動の実践例
ー國學院大学の取り組みー
國學院大学 教育開発推進機構 中山 郁
- P9 「実践的FDプログラム」オンデマンド講義一覧
- P10 「実践的FDプログラム」申込要領
- P11 JPFF 規約
- P12 入会のご案内





全国私立大学FD連携フォーラム

Japan Private Universities FD Coalition Forum

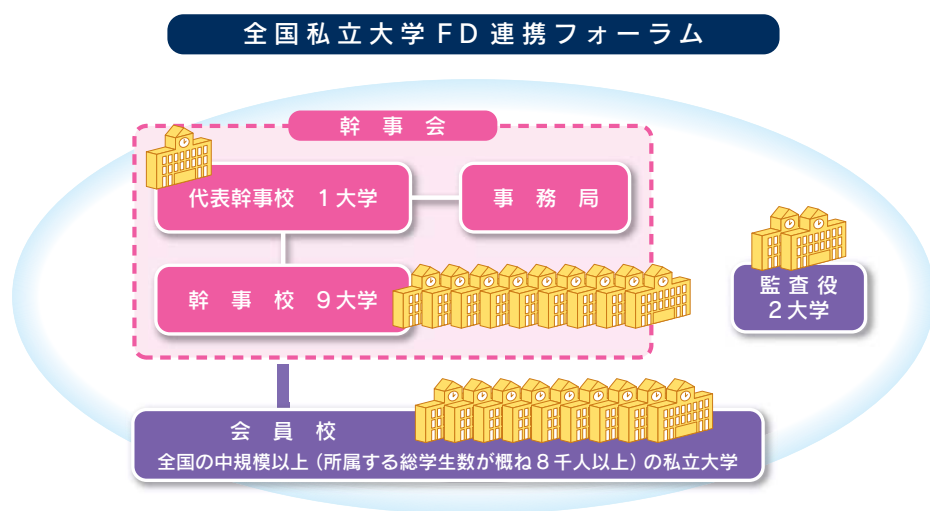
概要

本フォーラムは、学生の規模や多様性の面で共通の課題を抱える中規模以上の私立大学のネットワーク形成を図り、FD活動における連携の強化を図ることを目指して2008(平成20)年に結成されました。発足当初10大学であった加盟校は、年々増加し、2012(平成24)年3月現在で24大学に至っています。

活動にあたっては、2008(平成20)年度に採択された文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム」の補助金により運営してきましたが、文部科学省の補助事業としての期間が終了後の2011(平成23)年度以降は、年会費での運営を開始しました。

体制

設立目的 全国の中規模以上の私立大学が連携してFD(ファカルティ・ディベロップメント)を推進することにより、日本の新しい「高等教育の質保証」標準をめざす。



代表幹事校：立命館大学

幹事校	会員校
関西大学	青山学院大学
関西学院大学	神奈川大学
慶應義塾大学	北里大学
中央大学	京都産業大学
同志社大学	甲南大学
法政大学	國學院大學
明治大学	国士舘大学
立教大学	芝浦工業大学
早稲田大学	創価大学
	帝京大学
	東京農業大学
	東北学院大学
	名城大学
	龍谷大学
	(50音順)

2012(平成24)年3月現在

活動内容

◎FDに関わる取り組みや研究の共同開発・実施

◎全国への情報発信(ホームページの作成、広報誌の発行など)

◎FDに関わる教材・資料・情報の提供・共有

◎その他、前条の目的を達成するために必要な活動

2011(平成23)年度の取り組み紹介

2011(平成23)年度 行事・会議

●2011年度 第1回 幹事校ミーティング

日 時：2011年 6 月10日(金) 16:00～17:30
会 場：立命館大学 東京キャンパス／衣笠キャンパス

●関東圏懇談会

日 時：2011年 6 月15日(水) 15:30～17:00
場 所：法政大学 市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー 26 階 A会議室

●2011年度 第1回 幹事会

日 時：2011年 7 月 9 日(土) 13:00～14:00
場 所：立命館大学 朱雀キャンパス 地下1階 会議室

●2011年度総会およびパネルディスカッション

日 時：2011年 7 月 9 日(土) 14:00～17:00
場 所：立命館大学 朱雀キャンパス 1 階 多目的ホール

●2011年度 第2回 幹事校ミーティング

日 時：2011年10月21日(金) 15:00～16:30
会 場：立命館大学 東京キャンパス／衣笠キャンパス

●2011年度 会員校ミーティングおよび懇談会企画

日 時：2011年12月 1 日(木) 14:00～17:30
会 場：立命館大学 東京キャンパス／衣笠キャンパス

●2011年度 第3回 幹事校ミーティング

日 時：2012年 3 月19日(月) 15:30～17:00
会 場：立命館大学 東京キャンパス／衣笠キャンパス

●上記に加え、「実践的FDプログラム」ワークショップ10講座の公開(いずれも立命館大学にて実施)



2011年度 総会の様子



2011年度 総会企画・パネルディスカッションの様子



2011年度 総会企画・パネルディスカッションの様子



会員校ミーティングの様子(東京会場)

	講 座 名	テ ー マ	日 程
1	教育方法論演習Ⅱ	良い授業のための留意点 ー話し言葉に着目して～図形並べ	2011年 7 月16日(土)
2	教育方法論演習Ⅲ	良い授業のための留意点 ー非言語・視覚情報の応用～無言面接	2011年 7 月16日(土)
3	心理学演習Ⅰ	聴き手に求められる力	2011年 8 月 6 日(土)
4	授業設計論演習Ⅰ	シラバスと授業の到達目標の書き方	2011年 9 月19日(月)
5	授業設計論演習Ⅱ	強制連結法による授業設計	2011年 9 月19日(月)
6	授業設計論演習Ⅲ	マイクロティーチングと評価	2011年 9 月20日(火)
7	心理学演習Ⅱ	受容的に聴く力 ～イヌ・バラ法	2011年11月12日(土)
8	心理学演習Ⅲ	アサーション・トレーニング	2011年11月12日(土)
9	教授学習理論演習Ⅰ	アクティブ・ラーニングの方法と実践 ～ピア・サポーターの活用を中心に	2012年 1 月28日(土)
10	教授学習理論演習Ⅱ	アクティブ・ラーニングの方法と実践 ～ICTの活用を中心に	2012年 1 月28日(土)

活動報告 – 2011年12月1日(木) 開催 懇談会企画 実施報告 –

2011年12月1日(木)にフォーラム加盟校による懇談会企画を実施しました。

この懇談会は、私立大学における困難性や課題、取り組み状況などを共有することにより、各大学における取り組みの検討や改善の一助とすることを目的として、“会議”ではなく“懇談会”という形式をとることで率直な意見を出し合う場としました。進行は、グループ懇談(90分)と、テレビ会議システムを利用した懇談のまとめと情報共有(30分)の二部構成で実施しました。

グループ懇談は、関東会場、関西会場それぞれで2もしくは3つのテーマ毎にグループに分かれて行いました(懇談テーマと概要は下記参照)。事前に各大学から、懇談希望のテーマに対する達成目標、取り組み状況・事例や検討課題についての情報およびご意見を提示していただき、これらをまとめて資料とし、目標達成のための共通課題やその対応策について具体的な事例を交えて情報共有が行いました。どのグループも話し合いが盛り上がり、あっという間に時間が過ぎました。懇談終了後には、まとめとして関東会場と関西会場をテレビでつなぎ、各グループの懇談内容を共有しました。ここでは、「加盟校も増加しており、“全国”規模の連携体であるメリットを活かし、地域間比較などを希望する」というご意見や「情報を開示することの重要性、とりわけ同様の困難性を抱える大学間での情報共有の有用性から、本フォーラムの必要性・重要性を改めて確認した」という声などがあがりました。同時に、今回、各テーマでの議論のなかで、いくつか重要な課題提起もいただきました。今回いただいた課題や活動への期待を受け、加盟校の相互協力のもと、今後の活動につなげていきたいと考えています。

実施概要

日時：2011年12月1日(木) 15:15~17:30

場所：関東会場 立命館大学 東京キャンパス

関西会場 立命館大学 衣笠キャンパス

(※テレビ接続)



テーマ

関東会場

A：授業アンケート

B：初年次教育

関西会場

A：授業アンケート

B：大学院FD

C：ピア・エデュケーション



懇談会の様子

各グループ懇談概要

関東 A 授業アンケート

【参加大学】青山学院大学、芝浦工業大学、中央大学、法政大学、立命館大学、早稲田大学 (※50音順、以下同様)

各大学での実施状況の共有の後、学生・教員の負担をいかに軽減させるかという課題を確認しました。また結果の活用についての議論もあり、教員個々に任せられている段階ではなく、実効性のあるフィードバックが求められていることを共有し、次のような議論がされました。

- ① 個々のフィードバックについて：各大学で複数のアンケートデータを用意しており、それらをだきあわせて授業改善につなげていくのが良いのではないのか。また、アンケートを通じた教員相互授業参観などの積極的な利用により授業改善を行うのが良いのではないのか。
 - ② 授業改善の意味について：専門的授業の内容(例：DP(ディプロマ・ポリシー)に沿ったものになっているのか)についての評価も含めたアンケートのあり方について
 - ③ アンケートで学生評価の高い授業は、本当に必要で役に立つ授業なのか？
- ③については、また機会があれば議論してみたいとの課題提起がありました。

関東 B 初年次教育

【参加大学】神奈川大学、東京農業大学、立命館大学（※創価大学、中央大学は都合により欠席）

初年次教育にとどまらず、具体的な取り組み事例の共有も含めて幅広いテーマで話し合いを行いました。

初年次教育については、いずれの大学も正課にゼミナールなどを配置しているが、教員による差が課題であることの指摘があり、初年次教育に必要な教員のスキルについて議論がありました。その他、早期合格者を対象とした入学前教育や、特に同学年同士の関わり方に視点をのいたピア・エデュケーションについて、各大学の取り組み状況や課題の共有と意見交換を行いました。また、個別の取り組み事例として、東京農業大学が行っている新入生合宿（1泊2日）の事例を共有し、意見交換を行いました。

関西 A 授業アンケート

【参加大学】関西大学、関西学院大学、立命館大学、龍谷大学

授業調査の方法、調査の中身（項目、質問の数、内容）、方法に関わっては、回収率との関係、改善や効果測定、改善にどう結びつけていくか、公開をどうするか などについて、各大学の取り組み状況や課題、検討状況を共有し、時間の許す限り議論しました。そのなかで、具体的な取り組み・検討事例として、アンケートとシラバスの連携という新たな視点が提示され、今後の方向性のひとつであることを確認しました。

また、アンケート結果を全学的にどう見ていくのかという課題については、FDを担うセンターや機構が担う必要があるが、教員個人とセンター・機構の中間にあたる学部・研究科でどのように活かしていくかが鍵であることを確認しました。

関西 B 大学院 FD

【参加大学】関西大学、名城大学、立命館大学、龍谷大学

大学院FDは非常に重要な課題ですが、私立大学ではあまり進んでいません。国公立大学はドクターコースについて研究をされていますが、マスターの多い私立大学がどのように大学院FDを取り組むかについて、現在の取り組み状況の共有と課題への対応を検討しました。全学統一実施は難しいが、例えば研究科単位やキャリアパス形成などの目的別に科目を設定することで、将来、共通項がみえてくる可能性もあります。

議論のなかでは、そもそも私大の大学院にFDは必要なのか？という疑問も出されました。また、学力レベルの低い院生に対する“初年次教育”のようなものの必要性も指摘されましたが、実施には課題も多く、検討課題となっています。今後継続して情報共有をはかっていきたいと考えています。

関西 C ピア・エデュケーション

【参加大学】京都産業大学、立命館大学、龍谷大学

まず各大学のピア・エデュケーションの定義を共有し、これに大きく関わる教員と学生について、それぞれ考えました。教員では、教員相互の取り組み、ティーチング・ポートフォリオ作成に伴うメンターなどがあげられ、取り組みの推進にはFDを担うセンター所属教員の積極的な関わりが必要であることを確認しました。学生では、FDスタッフや新入生の学生生活のサポーター、正課授業内でのサポーターなど各大学の事例の紹介がありました。これらピア・サポートにおいては、学生が声を出せる場や学生の声を拾える場が必要であること、またその実現には、教職員の積極的な関わりが重要であり、大学としての人的・予算的な手立てが必要であることを確認しました。

新規加盟大学の紹介

龍谷大学

Ryukoku University

●全国私立大学 FD 連携フォーラムへの期待

本学では、「各教学責任主体が掲げる、建学の精神にもとづいた教育理念・目標を達成するための組織的・継続的な教育の質及び教育力の向上を目指したすべての取り組み」とFD活動を定義している。

全国私立大学FD連携フォーラムへの参加を通じて、私立大学における、建学の精神をはじめとする各大学の特徴を活かしたFD活動について共に考えていくと同時に、参加大学のFDに関する先進的な取り組みを共有させていただくことにより、本学のFD活動に活用していきたいと考えている。



第7回龍谷大学FDフォーラム2011
「学びのコミュニティをデザインする」の様子

●学内のFD実践紹介

龍谷大学では、教育活動の充実を図るため、「大学教育開発センター」を2001年に設立しFD活動の中核機関として位置づけている。センターでは「教育活動支援機能」「教育活動交流研修機能」「教育活動研究・開発機能」の3つの機能を有することにより、前述のFD活動の定義に基づき、本学の教育活動の向上に資するFD事業を推進している。



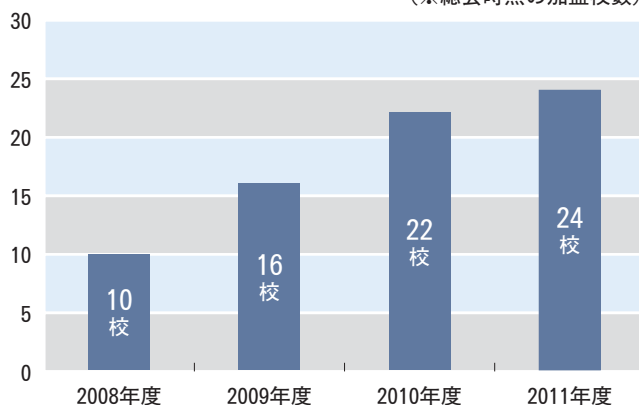
2011年度新任教員フォローアップ研修の様子

本学独自の取り組みとして、センターが指定する教育開発に関するテーマについて研究開発を行う「指定研究プロジェクト」や各個人やグループで教育に関する研究を行う「自己応募研究プロジェクト」を実施し、FDの推進と活性化を図っている。

全国私立大学FD連携フォーラムは2008年度に幹事校10大学より発足し、2011年度は24の加盟校と連携をとり活動しています。現在も中規模以上の大学へ連携を呼びかけ、賛同いただいた大学の新規加盟への実現に向かっていきます。

〈全国私立大学 FD 連携フォーラム 加盟校数推移〉

(※総会時点の加盟校数)



〈2009年度以降の加盟大学の紹介〉

加盟年度	加盟大学
2009年度	青山学院大学、神奈川大学、京都産業大学、甲南大学、東京農業大学、名城大学
2010年度	北里大学、國學院大学、国士舘大学、芝浦工業大学、創価大学、東北学院大学
2011年度	帝京大学、龍谷大学

※加盟年度はいずれも総会時点
※大学名はいずれも50音順

FD徒然草 – Part 2 – 「法政大学におけるFDへの取り組み」 – 学生・職員・教員の協働によるFD –

1 法政大学 教育開発支援機構FD推進センターについて

法政大学教育開発支援機構FD推進センターでは、FD (Faculty Development) を、『『自由と進歩』の建学の精神に基づく教育理念と教育目標を達成するためになされる、教育及び学びの質の向上を目的とした教員・職員・学生による組織的・継続的な取り組みを、FDと定義する』と捉えている。

具体的な活動内容として、学内では、シラバスの作成による授業目標の設定、教材の選定方法、到達目標の明確化、GPA制度の導入、単位の実質化で求められる学習の促進方法などについて各教学単位で話し合うためのツールとして「振り返りシート」の提供、本学のFD活動のさらなる推進のため各種テーマのシンポジウム、フォーラム、ワークショップの開催、「授業改善」のための「学生による授業改善アンケート」、「FD学生の声コンクール」、新入生向け「学習支援ハンドブック」や「法政大学教育研究(紀要)」なども発行している。また、学外では、立命館大学を代表幹事校とする「全国私立大学FD連携フォーラム」、関東圏FD連絡会(法政大学、東洋大学、立教大学、青山学院大学)への参画や高等教育機関を対象とした各種シンポジウム・ワークショップへの参加による情報交換も積極的に行っている。

2 関東圏FD学生連絡会について

学生参加型のFD活動として、立命館大学木野茂氏、岡山大学橋本勝氏(現富山大学)を始めとする多くの取り組みが行われており、第18回大学教育研究フォーラム(2012年3月15・16日開催)の研究部会やラウンドテーブル企画でも「学生とともに進めるFD」等も報告されている。

関東圏FD連絡会は、関東圏のFD担当の教員・職員による「より合い」的なFD関連の情報交換の場として、2011年11月に発足し、今年で3年目を迎える。その中で「関東圏での学生FD」の重要性の観点から、HART*コミュニティ(法政、青山、立教、東洋の各大学の頭文字から命名)が発足し、「2011学生FDサミット 春」(東日本大震災の影響により中止)の企画・準備も行なわれた。

引き続き、新たな取り組みとして「関東圏FD学生連絡会」スタッフ募集を行い、2011年9月16日(金)13:00～法政大学市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー26階スカイホールにて、関東圏FD学生連絡会「キック・オフミーティング」が開催された。

関東圏FD学生連絡会は、「学生FD活動に取り組む大学と連携を深め、関東圏FD学生連絡会が一丸となって教職員とともに関東の大学教育・学生生活を主体性のあふれる充実したもの

法政大学 教育開発支援機構FD推進センター長 川上 忠重

にしていく」ということを目標としている。「キック・オフミーティング」内のワークショップでは、テーマを「良い授業とは? ~他大学を知って自大学を知る~」とし、6グループに分かれて、グループ内のそれぞれの大学のメンバーと情報交換や意見交換により、「良い授業」について検討し、ワークショップ全体発表では、その結果をグループ代表者が紹介し、寸劇あり、教育論ありの楽しく充実した発表が行われた。



ワークショップの様子

現在まで、10回程度の全体ミーティング、合宿、幹事会、忘年会も開催され、授業改善、イベント、学生生活向上の企画やマスコットキャラクターの作成等、楽しく、建設的な活動が継続されている。

3 今後の全国私立大学FD連携フォーラムについて

現在の高等教育が直面している現実に即して、「教育の質」を保障する体制構築には、私立大学としての独自性・多様性を持った明確な「ミッション」および「ビジョン」に基づく取り組みは必要不可欠である。そのためには、グローバル・スタンダードの確立、「質保証」や研修プログラムも当然必要であるが、やはり私立大学間の連携による「高等教育への取り組み」が重要と思われる。大学内での学生・教員・職員のみならず、初等・中等教育および社会情報も積極的に取り入れた形で、「負担感」が少なく、わかりやすいFDへの取り組みを、是非、代表幹事校、幹事校、参加校とともに推進していただくことを期待している。



関東圏FD学生連絡会マスコット
おじかちゃんとおめじかちゃん

「実践的 FD プログラム」を取り入れた FD 活動の実践例 ― 國學院大学の取り組み ―

國學院大学教育開発推進機構 中山 郁

1 國學院大学における FD 活動と

全国私立大学 FD 連携フォーラムへの加盟

國學院大学では平成 13 年度より FD 活動を本格化させ、授業評価アンケートの導入、年 2 回の FD 講演会や授業見学の開催などを実践してきた。さらに、こうした活動を基に、FD 活動のより一層の推進を図るため、平成 21 年 4 月には教育開発推進機構を発足させ、現在専任教員 5 名、事務職員 3 名が所属して、大学の教育力向上に資する事業を推進している。

本機構発足後に課題となったのは、全学的に行なう、いわゆる定番としての FD 活動が一応は軌道に乗ったのに対して、各学部の FD 活動支援ならびに、教員各自の大学や授業に対する認識をいかに深めてもらうか、というものであった。そこで本機構では、まず新任教員に対する働きかけを行なうべく、21 年 4 月より新任教員研修を開始するとともに、組織的かつ実効性ある教員研修体制について摸索を続けていた。そうしたなか、平成 21 年度秋季 FD 講演会に講師として招聘した立命館大学の沖裕貴先生から全国私立大学 FD 連携フォーラムへの参加のお誘いを頂いたのである。本機構では加盟校間の情報交換もさることながら、特に同フォーラムが提供する「実践的 FD プログラム」を活用した本学独自の教員研修体制構築の可能性を見出し、加盟することとしたのである。

2 本学における実践的 FD プログラム利用の実際

本機構ではフォーラム加盟後、「実践的 FD プログラム」の利用をひろく専任教職員に呼びかけている。ただし、教員研修への参加や同プログラムの利用の義務化はせず、そのためオンデマンド授業 (VOD) の視聴についても、教員各自の都合にあわせた利用を呼びかけることとしている。一方、ワークショップ (WS) 科目については、22 年度より教員研修体制の中への組み込みを図っている。

現在、本機構では新任教員研修を年 3 回、既着任教員研修を年 1 回 (新任教員研修と同時開催) 実施している。例えば 23 年度の研修では、3 回の内 2 回を新任教員向けの講義 (建学の精神、



外部講師による「授業設計論演習Ⅰ」
(22年度)



本学教員を講師とした「授業設計論演習Ⅰ」
(23年度)

校史、教育目標、高等教育の動向など) に、残り 1 回を新任・既着任教員対象のワークショップにあて、「授業設計論演習Ⅰ」(観点別教育目標に基づくシラバスの書き方)、「教育方法論演習Ⅱ」(図形並べ) を開講した。これらには新任並びに既着任教職員二十数名が参加した。本学の教職員はワークショップ形式の研修に馴染みが薄く、最初は勝手が分からず戸惑う人も見られたが、グループワークに入ると、すぐに打ち解け、和気藹々とした雰囲気の中で行なわれた。なお、気になる参加者の評価であるが、22・23 年度とも事後アンケートの結果からは、そのほとんどが高い満足感のなかで研修の有効性を実感していたことが明らかにされている。以上の成果を踏まえ 24 年度には、ワークショップをもう 1 科目増やし、全 3 科目を開講する予定である。

ところで、ワークショップを開くためには講師とファシリテーターの存在がかかせない。本学では立命館大学教育開発推進機構に講師派遣を依頼して開催してきた。

しかし、本機構が FD 組織として成長するためには、本学に必要なと思われる科目を、自身で運用する能力をつける必要があるし、それによってこそ初めて FD 組織として、全学に対する責任を果たすことができるというものである。そこで、本機構では専任教員を立命館大学で開催される実践的 FD プログラムワークショップに派遣し、その運営スキルの修得を図っている。さらに 23 年度の研修では、前年に「授業設計論演習Ⅰ」を受講した教員が講師やファシリテーターを務めるなど、ワークショップ運営のトレーニングを積んでいるところである。当面は新任教員向けの科目のうち、半数程度を本機構独自に運営できるようにしたいと考えている。



図形並べのワークショップ(23年度)

3 実践的 FD プログラム利用の課題

以上のように本学では、現在のところ実践的 FD プログラムのワークショップ科目を活用しながら、本学独自の教員研修体制の構築を試みているところである。しかし課題もまだまだ山積している。こと実践的 FD プログラムの利用に限って言っても、アカウント取得者の多さに比べてオンデマンド授業の視聴率がかなり低いという問題がみられる。今後はオンデマンド授業の利用促進策を検討してゆく必要があろうが、それにはワークショップとの組み合わせによる研修プログラムの提供などの工夫なども考えられようが、今後の課題としたい。

「実践的FDプログラム」オンデマンド講義一覧

- 2012年度公開予定講義一覧です。(一部変更になる場合があります。)
- 「対応レベル」は、「レベル1」は新任教員向け、「レベル2」は一般教員向け、「レベル3」は管理職にある教職員向けとして構成しています。

※以下2講座の内容を更新しました！

- 「大学管理運営Ⅲ」リスクマネジメント：大学教員のためのキャンパスハラスメント
- 「心理学Ⅳ」発達障害のある学生の学びーアスペルガー症候群を中心にー

分類	対応レベル			分野	テーマ	講師	所属 (※撮影時)	対応言語
	LV1	LV2	LV3					
教育	●	●	●	高等教育論Ⅰ	現代の高等教育	金子 元久	東京大学	日・英
教育		●	●	高等教育論Ⅱ	高等教育研究史	有本 章	比治山大学	日
教育	●	●	●	高等教育論Ⅲ	大学改革とFD研究	江原 武一	立命館大学	日・英
教育	●	●	●	高等教育論Ⅳ	大学評価論	安岡 高志	立命館大学	日・英
教育		●	●	高等教育論Ⅴ	高等教育政策：戦後日本の大学政策(転換期の大学政策、海外との比較)	高野 和子	明治大学	日
教育	●	●	●	高等教育論Ⅵ	接続教育：初年次教育の取組	山田 礼子	同志社大学	日
教育		●	●	高等教育論Ⅶ	大学の国際化	モンテ・カセム	立命館大学	日・英
教育	●	●		教授学習理論Ⅰ	教授・学習の理論と教育実践(1)	永野 和男	聖心女子大学	日・英
教育	●	●		教授学習理論Ⅱ	教授・学習の理論と教育実践(2)	永野 和男	聖心女子大学	日・英
教育	●	●		教授学習理論Ⅲ	アクティブ・ラーニングの理論と実践における課題	三浦 真琴	関西大学	日
教育	●	●		教育方法論Ⅰ	教育工学の観点から	林 徳治	立命館大学	日・英
教育	●	●		教育方法論Ⅱ	高等教育における授業技術	木野 茂	立命館大学	日・英
教育	●	●	●	教育方法論Ⅳ	学習教材作成における著作権等の理解	坂井 知志	常盤大学	日
教育	●	●		教育方法論Ⅴ	学生授業評価の読み方と授業への活用	安岡 高志	立命館大学	日
教育	●	●		教育方法論Ⅵ	情報活用基礎：ICTを活用した学習コミュニティづくり	中島 英博	名城大学	日
教育	●	●	●	授業設計論Ⅰ	大学の授業の設計	沖 裕貴	立命館大学	日・英
教育	●	●		授業設計論Ⅱ	授業設計と授業方法・技術・評価	横田 学	京都市立芸術大学	日
教育	●	●		教育評価論Ⅰ	成績評価の意味と方法	鳥居 朋子	立命館大学	日・英
教育	●	●		教育評価論Ⅱ	目標標準測定に基づく評価	野嶋 栄一郎	早稲田大学	日
教育	●	●	●	教育評価論Ⅲ	ティーチング・ポートフォリオとは	栗田 佳代子	大学評価・学位授与機構	日
教育	●	●		心理学Ⅰ	青年期の心理	白井 利明	大阪教育大学	日・英
教育	●	●		心理学Ⅱ	発達の原理と各段階の特性	西垣 順子	大阪市立大学	日・英
教育	●	●		心理学Ⅲ	臨床心理学の基礎と応用	串崎 真志	関西大学	日・英
教育	●	●	●	心理学Ⅳ	発達障害のある学生の学びーアスペルガー症候群を中心にー	荒木 穂積	立命館大学	日
研究	●	●	●	研究者倫理Ⅰ	教員と学生の教育・研究を促進するツールとしての研究倫理	望月 昭	立命館大学	日
研究	●	●		研究のアウトリーチ活動Ⅰ	研究者にできる多様なアウトリーチ活動の紹介	半田 利弘	東京大学	日
管理運営	●	●		大学管理運営Ⅰ	大学教職員のための大学管理運営基礎	肥塚 浩	立命館大学	日・英
管理運営	●	●		大学管理運営Ⅱ	近年の大学改革の進展を踏まえた大学管理運営の新たな発想	山本 眞一	広島大学	日・英
管理運営	●	●	●	大学管理運営Ⅲ	リスクマネジメント：大学教員のためのキャンパスハラスメント	井口 博	東京ゆまにて法律事務所	日
管理運営		●	●	大学管理運営Ⅳ	IR入門	鳥居 朋子	立命館大学	日
管理運営			●	大学管理運営Ⅴ	業務改善のためのIR	池田 輝政	名城大学	日
管理運営			●	大学管理運営Ⅵ	ADMINISTRATIVE STAFF DEVELOPMENT	ブルース・ストロナク	テンブル大学ジャパン	日・英
管理運営		●	●	大学管理運営Ⅶ	PDCAを理解する	安岡 高志	立命館大学	日
管理運営	●	●	●	FD概論Ⅰ	大学におけるミクロ・ミドルレベルでのFD活動	佐藤 浩章	愛媛大学	日
管理運営		●	●	FD概論Ⅱ	大学におけるマクロレベルでのFD活動	川島 啓二	国立教育政策研究所	日
管理運営		●	●	プロジェクト・マネジメント	FD活動推進等の大学経営革新に活かすプロジェクトマネジメント	牧野 光昭	(社)日本能率協会	日
WS		●	●	授業設計論演習Ⅰ	シラバスと授業の到達目標の書き方	井上 史子	立命館大学	日
WS		●	●	授業設計論演習Ⅱ	強制連結法による授業設計	井上 史子	立命館大学	日
WS		●	●	Ⅱ教育方法論演習	良い授業のための留意点(話し言葉に着目して)ー図形並べー	井上 史子	立命館大学	日
WS		●	●	教育評価論演習Ⅱ	ティーチング・ポートフォリオの作成	井上 史子	立命館大学	日
WS					ワークショップ準備篇	井上 史子	立命館大学	日

「実践的FDプログラム」申込要領

● 利用申込について

【利用期間】 1年間（5月利用開始・毎年3月末終了）

【利用申込書】 ホームページよりダウンロードできます。
JPFF会員校：http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd_application.html
非会員校：http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/ac/itl/fd_p/fd_program.html

【利用料】 利用者数（アカウント数）に応じて、以下のとおり利用料を設定しています。
※利用者1名につき1アカウントが必要です。

利用者数 （アカウント数）	JPFF会員校 利用料	非会員校 利用料
1～9名	10,000円	20,000円
10～19名	30,000円	40,000円
20～29名		60,000円
30名以上	50,000円	——

【申込方法】 ①「利用申込書」に必要事項を記入のうえ、Fax、E-mail、郵送のいずれかの方法で事務局までお送りください。
② 利用申込受付後、「受付確認書」と「受講者情報登録用紙」をお送りいたします。
個人ID発行のために、受講者の情報をお知らせください。
※なお、登録時にいただいた情報は、ユーザ登録、利用状況調査の際に利用します。
③ その後、「振込依頼書」をお送りしますので、記載された振込先に利用料のお支払いをお願いします。
受講登録完了後、ID・パスワードをお送りいたします。
※5月より利用を開始するためには、3月末までにお申込ください。

● 2011年度利用者の活用状況（ご参考）

（オンデマンド講義 受講者対象アンケートおよび申請機関対象アンケート結果より抜粋）

受講者の決定方法

- センター関係教職員は必須とし、一般の教職員には学内に広報して希望者を募った。
- 新任教員については4月に行われる第1回新任教員研修時に当プログラムを紹介のうえ受講者を募集。既着任教職員については学内に広報を行い受講者を募集した。
- 試験的運用のため、学科のFD委員またはFD委員から依頼された教員が受講した。
- 学内のFD活動を中心になって行う教育実践支援室の室員を受講者とした。
- FD推進委員を通じて受講者を募る。

受講者の感想

- 各講義が比較的短時間で、教材も利用しやすかった。
- 隙間時間を利用して自己研鑽できる機会として魅力を感じた。資料の開封のやり方が初めわからずにとまどった。
- 通常のFDではテーマが決まっているが、オンデマンド講義だと自分が興味を持っているテーマについて視聴することができたのでよかった。気になった点としては、ときどきノイズが入る映像があったことと、こちらのパソコンの設定によるものだと思うが突然アクセスできなくなったことである。
- 良かった点は資料がダウンロードできること、講義が資料通りに進むことです。
- 具体的事例にあたってみたいと思っていたので、その機会が得られて助かります。
- インターネット環境が確保された場所であれば職場と自宅とを問わず視聴できることから、受講する時間が取りやすいことは大変便利だと感じました。まだ視聴した本数は少ないのですが、今後の勉強のために少しずつでも視聴して行きたいと思っています。

■「全国私立大学FD連携フォーラム」規約■

第1章 総則

【名称】

第1条 この連携体は、全国私立大学FD連携フォーラム（以下「本フォーラム」という。）と称する。

【目的】

第2条 本フォーラムは、全国の中規模以上の私立大学が連携して、FD（ファカルティ・ディベロップメント）を推進することを目的とする。

【活動】

第3条 1. 本フォーラムは、前条の目的を達成するため、次の各号に定める活動を行う。
2. FDに関わる取組や研究の共同開発・実施
3. FDに関わる教材・資料・情報の提供・共有
4. 全国への情報発信（ホームページの作成、広報誌の発行など）
5. その他、前条の目的を達成するために必要な活動

第2章 会員校

【会員校】

第4条 1. 全国の中規模以上の私立大学のうち、本フォーラムへの入会を希望するときは、幹事会に所定の届出を行い、承認を得ることにより、本フォーラムの会員校になることができる。
2. 前項の「中規模以上」とは、所属する総学生数が概ね8千人以上の大学とする。また、幹事会が会員校に相応しいと判断した大学もこれに含む。
3. 参加単位については、大学や機関等組織体による参加とする。
4. 会員校は、第3条に定めた諸活動に参加することができる。
5. 本フォーラムを退会するときは、本フォーラムの事務局に届け出なければならない。

【会費】

第5条 会員校は、本フォーラムの定めるところにより、毎年会費を納めなければならない。

第3章 組織

【総会】

第6条 1. 本フォーラムは、原則として毎年1回総会を開催する。
2. 総会は、全会員校をもって構成する。
3. 各会員校は、当該会員校を代表して総会に出席する者1名をあらかじめ登録しなければならない。ただし、会員校に所属する他の者が、あらかじめ登録した者を代理し、または総会に陪席することを妨げない。
4. 総会は、次の事項を審議する。
① 会費に関する事
② 年度ごとの活動方針、活動報告に関する事（予算、決算報告を含む）
③ 代表幹事校、幹事校および監査役の選出に関する事
④ 規約の改正に関する事

⑤ その他重要な事項

5. 前項に定めるもののほか、総会の議事の運営に関し必要な事項は、総会で定める。
6. 総会は、会員校の半数以上が出席しなければ、開会することができない。
7. 総会の議事は、出席の会員校の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長校が決する。

【代表幹事校および幹事校】

第7条 1. 本フォーラムに、幹事校10校を置き、そのうち1校を代表幹事校とする。
2. 幹事校は、会員校の中から選出し、総会で承認する。
3. 代表幹事校は、第8条第3項第1号による幹事会の推薦に基づき、総会での承認を得て、選出される。
4. 代表幹事校は、総会および幹事会を招集し、議長校となる。

【幹事会】

第8条 1. 本フォーラムに幹事会を置き、代表幹事校および全幹事校で構成する。
2. 代表幹事校および幹事校の任期は2年とする。ただし、いずれも再任を妨げない。
3. 幹事会は、次の事項を審議する。
① 代表幹事校の推薦に関する事
② 本フォーラムの活動に係る企画立案に関する事
③ 本フォーラムへの入会および退会に関する事
④ 総会の議案に関する事
⑤ 本フォーラムの運営に関する事
⑥ その他重要な事項であって、緊急に決定を要する事
4. 幹事会が前項第6号の規定による決定をした場合には、総会その他の方法により、会員校に速やかに報告し、承認を受けなければならない。
5. 幹事会は、必要と認めるときは、幹事校以外の会員校または者を出席させて、説明または意見を聴くことができる。
6. 幹事会の運営については、この規約に定めるもののほか、幹事会で別に定める。

【監査役】

第9条 1. 本フォーラムに監査役2校を置く。
2. 監査役は、会員校の中から選出し、総会で承認し、会計を監査する。
3. 監査役の任期は、2年とする。

【ワーキング・グループ】

第10条 1. 本フォーラムの業務を遂行するため、ワーキング・グループを組織することができる。
2. ワーキング・グループの組織、運営等については、幹事会で別に定める。

【事務局】

第11条 1. 本フォーラムの事務局は、代表幹事校に置く。
2. 代表幹事校および幹事校は協力して事務局の運営にあたる。

附則 1. この規約は、2008年12月6日から施行する。
2. この規約の施行後最初の代表幹事校、幹事校および監査役の任期は、総会で別途定める。
附則 (2010年10月8日 第4条の2、第7条の2、第9条の2の一部改正)
この規約は、2010度10月8日から施行する。

入会のご案内 Guide to membership

全国私立大学 FD 連携フォーラムの年会費は、当面、5 万円としています。

全国私立大学 FD 連携フォーラムの活動や報告などについては、下記ホームページをご覧ください。入会を希望される場合は、ホームページより入会届をダウンロードし、ご記入いただき、郵送もしくは Fax にて下記事務局までお送りください。

全国私立大学 FD 連携フォーラムへの入会に関するご質問や実践的 FD プログラムの利用に関するご質問がございましたら、下記事務局までお問い合わせください。

<http://www.fd-forum.org/>

全国私立大学 FD 連携フォーラム
Japan Private Universities FD Coalition Forum

日本の新しい「高等教育の質保証」標準をめざします。

学生の規模や多様性の面で共通の課題を抱える中規模以上の私立大学が互いに持てる力を出し合い、FD(ファカルティ・ディベロップメント)分野において連携することを目的として、全国私立大学 FD 連携フォーラムを 2008 年に発足しました。
このフォーラムでは、実践的な FD プログラムを共同開発・共同実施することを通じて、学生を主体的学習者に育てて、私学の教育の質を保証することを大きな目的としています。

※各大学の写真をクリックすると、その大学の紹介ページを閲覧できます。

活動案内 活動報告 その他

2012年2月 8日 実践的FDプログラム 利用申込詳細を掲載しましたNew!!

2011年12月 9日 実践的FDプログラム ワークショップを開催します

2011年12月 2日 参加校より フォーラムのお知らせ(関西学院)

2011年6月23日 2011年度総会企画 パネルディスカッション開催のお知らせ

2011年2月 9日 実践的FDプログラム 2011年度講義一覧を掲載しました

CALENDAR

2012年2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29			

「活動案内」一覧へ

事務局

立命館大学 教育開発推進機構 (事務局: 教育開発支援課)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
◎TEL:075-465-8304 ◎FAX:075-465-8318
◎e-mail:fd71cer@st.ritsumei.ac.jp

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/itl/>